自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社ヒューマンシステムジャパン		
事業所名	自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11番7号		
自己評価作成日	令和元年8月29日	評価結果市町村受理日	令和1年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170401780-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和元年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲区全貌を見渡すことができる場所に立地され、居間や居室もゆったり落ち着くことができるつくりになっています。館内はとても清潔で、介護スタッフも明るく優しい人ばかりです。家庭的な雰囲気作りを常に心掛けて頑張っています。開設当初からのスタッフがほとんど勤続しており、働きやすい環境と職場であることは確かです。食事も美味しいと入居者様に評判です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西方面の手稲区に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内の高台にあり、閑静な住宅地に2階建て2ユニットのグループホームである。事業所の敷地は約500坪あり、草の手入れや冬季間の除雪は職員の大仕事だが、利用者の外気浴や散歩、楽しいバーベキューなどの行事や花壇、菜園、駐車場として活用している。また、高台の立地の為、リビングの大きな窓からは札幌市内手稲区や銭函、石狩湾などが望め、季節を感じていつもまでも眺めていられる眺望である。法人は、居宅介護支援事業所や訪問介護サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、クリニック併設型複合サービス付き高齢者向け住宅、児童デイサービスなど介護福祉の幅広い分野で展開しており、培った経験が活かされている。特に系列の児童デイサービスの子供達との交流は利用者の楽しみな機会となっている。ホーム内は、全体的にゆったりとしており、家族用の個室もあり、普段は町内会の会議室に活用している。また、ホーム内は、整理整頓され、実習生も受け入れるなど、和気あいあいの雰囲気の暖かいホームである。これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームと、食堂ホールに掲示しています。利用者様の目につくところなので、スタッフ一同全員初心を忘れず緊張感のある中仕事に取り組んでいます。	事業所の理念は、職員皆で作ったもので、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、年2～3回のミーティング時に理念について振り返り、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会婦人部サークル活動へ会議室の提供をしている。ボランティア活動を行事ごとに取り入れ入居者様に楽しんでもらっている。近隣の美容室にお願いし、散髪、パーマメントなど出張サービスが毎月ある。	町内会行事のゴミ拾いやバーベキュー、盆踊りなどに参加している。事業所主催の敬老会やバーベキューなどに地域の方が参加しており、敬老会にはボランティア活動の参加協力がある。また、町内会婦人部のサークル活動には会議室を提供するなどして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、避難訓練などの参加呼びかけを町内会に回覧で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	レク活動、アクシデント報告など統計をとり年度末に発表し、ご意見を頂いています。	運営推進会議は、家族や地域の方、地域包括支援センター担当者や民生委員などが参加して定期的に開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換や講師を依頼し勉強会を行うなど積極的に取り組んで、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は町内会役員なども参加して、講師による勉強会を行うなど積極的に活動しているが、家族の参加が少ない。家族の意見や要望を反映するためにも家族の参加を促す企画を検討すると共に会議の運営方法や議事録作成の再確認を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ボランティア団体の要請や手稲地区管理者会議会議室の提供をいただいています。、介護申請の手続き時に行政の情報収集を毎回しています。(手稲区)	会議室を手稲地区管理者会議等に提供しており、手稲区主催のふれあいフェスティバルの施設見学会にも参加して連携している。また、手稲区保護課は半年ごとに訪問があり情報交換しており、保健福祉課には都度手続き等で連携するよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を議題とした講習への参加の実践と全体会議の議題とした取り組みにて全員がケアの実践を行っています。	身体拘束廃止委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行っている。また、事業所内では、身体拘束をしないケアの研修会を年3回実施しており、指針やマニュアルを整備して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護記録を充実させ日々のスタッフの対応の反省点などはユニット会議で取り上げ改善に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ボランティア団体の協力にて成年後見制度をテーマとした講習会をお願いしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時管理者から解りやすく説明し同意をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱をユニットにもうけ、契約書の中には札幌市のクレーム対策室の連絡先を記載しています。契約書に苦情センターの番号を記載しています。	運営状況を記載したホーム便りと利用者毎の生活状況を記載した個人のお便りを2ヶ月に1回家族に送付して報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は来訪時に殆ど聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて自由に発言してもらい、個々に相談が出来る関係性を管理者が築いています。	ユニット会議は月1回行っており、2ユニット合同の会議は年2回行っている。個人面談は、必要な都度随時行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	各会議で職員からの意見や提案は聞き取り、運営に反映しているが、人材教育と人心掌握の為の個人面談として、定期的に年1回以上実施することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善、交付金を能力に応じ支給している。資格手当の支給や無資格者には会社負担で習得講習をバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様完全にバックアップしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者交流会、親睦会への参加や、同業施設からの空き情報の共有を常に連絡網で行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に生活歴を詳しく聞き取りしてその方に適切なケアプランを作成しています。1週間単位で経過観察記録は、初回必ず残し、不安を取り除けるケアを実践しています。ご家族様へ面会ができやすくなる言葉がけをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメント時たっぷり時間をかけお話を伺っております。家族様へのアドバイスや良き相談者として接し、他愛ない日常の会話の場として心を開いて頂けるよう接しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望の答えはいつでも家族様がカギを握っており、遠慮や些細な意思の疎通が生じています。そのことの仲介人として双方の意向に添えるような聞き取りを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のコミュニケーションの時間を十分に取れる業務内容にしています。よって談話の聞き手となったり個別に居室担当をもうけ外出をしたり親交を図っています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事参加のお願いや、家賃、お小遣いの入金を面会時にしてもらうなど、面会の回数を出来るだけ多くして頂けるようお願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出が自由にできるようにしています。電話も自由に掛けてもらっています。	利用者の出身地が地元が多い為、家族や友人、知人の来訪が多い。美容室やお墓参りなどの外出や外食は、家族と一緒にしている。来訪者が少ない利用者には、職員が買い物ついでに外出の同行をして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	古くから入居されている方が、新しく入った方の面倒を率先して見てくれます。力関係が解りやすくなっていますので今いる入居者様の性格や嗜好を十分に見極める努力をスタッフ全員行っています。相性の良いもの同士で席順を決めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御親戚や、知人の入居相談の対応をしています。療養型医療施設に転所の場合お見舞いに伺ったり、亡くなられた場合は葬儀に参列させていただきます。ありがとうございます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に会いたい、いつまでも自分で出来ることは続けたい。など日々の会話やコミュニケーションの中からスタッフ全員がご家族様に連絡をとったり疎遠や孤独にさせないように努め、代行して本人の意向を伝えたりしている。	日常生活の中で、本人の思いや意向の把握のために、話す機会をできるだけ作り思いや意向の確認に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居間もない段階では、無理せず本人のペースで生活してもらいます。(起床時間、食事の内容、就寝時間など、)今まで使っていた愛着のあるものは可能な範囲でご自宅から持って来てもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの自由な時間を尊重してもらっています。前日からの申し送りなどで身心の変化を見逃さないよう気を付けています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が主軸となり定期的なカンファレンスを行っています。協力医療機関からも都度アドバイスを頂いています。家族様には面会時報告や今後の要望などを伺っています。	計画作成担当者が本人や家族の意見や要望を聞き、協力医療機関の情報も収集してまとめ、モニタリングして、ユニット全員でカンファレンスして現状に即した介護計画を作成している。見直しは、半年サイクル行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に詳しく記載し、申し送りや連絡ノートも利用し日々の変化を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すたっ全員が協力して、傾聴や希望にそえるよう必要であれば会議を持ち検討し取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手稲区ボランティア団体招待など入居者様に楽しんでもらう会を計画しています。地域町内会サークル活動の場所を提供しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、かかりつけのなじみの深い医療機関は継続してもらい、家族様をお願いしています。ホーム提携の医療機関も24時間体制で対応可、看護師不在の部分は近隣の訪問看護サービスと会社との契約にて週1回健康チェックがあります。	以前からのかかりつけ医は継続し、協力医療機関も訪問診療が月1回または2回となっている。訪問看護師は週1回の24時間体制で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日の訪問看護にて状態の報告をしています。休日、祭日にあたらないよう早めに処置対応ができるようお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にフェースシートの提示と、介護支援内容記録を提出しています。ソーシャルワーカー、看護師に入院中の様子経過を電話でお聞きしたり、ケアマネジャーが面会に出向き様子を見させて頂きご挨拶をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明時、重度化への意向や施設の移動等はじっくりとお話しています。グループホームで可能な限り生活が送れるよう主治医と家族、施設長が変動に応じカンファレンスの場を設けています。	入居契約時に看取りをしないことを含めた対応を説明している。重度化した場合のマニュアルも整備して、可能な限り対応できるよう主治医・看護師・職員と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルに基づき行っています。事例を参考にした会議講習、また外部救急講習会に参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定とした避難訓練が年2回あります。地震、水害は昨年胆振東部地震の経験を生かせるようマニュアル作成中です。	火災の避難訓練は、消防署の指導の下、年2回マニュアルや簡易ストーブなどの備品・備蓄を整備して、災害対策を行っている。	避難訓練は、マニュアルや備品等を整備して定期的に行っているが、家族や地域の参加協力が少ない為、その方々の参加協力と適した避難先の特定などを検討することを期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しいトーンで、表情や体調の変化に沿った声かけが出来るよう努力しています。	人格の尊重とプライバシーについては、新人の場合は新人研修で指導しており、新人以外は、身体拘束をしないケアの研修会等で説明し指導している。また、記録等も事務所にて保管しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余裕を持って傾聴できるように努めています。ひとりのスタッフに任せず本人が話しやすい者が対応したりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	無理はさせない、その日の気分をたいせつにしてもらっています。退屈にならないよう生活歴を参考に趣味活動ができるように慌ただしい時間割は組んでいません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意志の決定能力に応じ本人に都度伺いながら身だしなみをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時から嗜好に沿った対応しています。嫌いなものは代替えています。スタッフも同席にて会話を楽しみながらまた、誤嚥に注意しながら毎回楽しく食事しています。	料理は職員が担当し、利用者の嗜好に合わせている。利用者は、洗い物などを手伝っている。行事食は、誕生日は本人に好みのものを提供し、牡丹餅や七夕に流しソーメン、会席料理の出前など。外食は、回転寿司やハンバーグなどで楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量のチェックをし、日中、夜間トータル1500cc～2000ccを目標に支援している。ゼリーやアイスなど活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、指導にて行っています。磨き残しは介助しています。訪問歯科口腔ケアを利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のない方は2時間ごとのトイレ誘導を行います。様子観察にてサインを見逃さずプライバシーを損ねない誘導をしています。衣服の上げ下げは可能な限りして頂きます。	利用者毎の排泄パターンのチェック表を職員間で共有し、利用者一人ひとりの時間や仕草、表情を見ながら声掛け誘導して、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは都度対応している。訪問看護の協力を受け処置をお願いしている。定時の体操や水分補給に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	夕方の入浴の支援も時々したりしている。	浴室はユニット型で、入浴は週3回～4回の利用者もあり、希望に合わせて毎日入浴できる態勢で、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特になく本人の習慣に合わせて自由にさせていただいています。季節ごと寝具類の交換の支援をしています。運動や排便コントロールにも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更の送りは漏れなく行っている。送りノートを単独にして薬用としている。会議での確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝い、工作、力仕事など可能な限りして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園に散歩に出たり、買い物、外食、など個別に出かける回数を春～秋にかけ頻回にしています。車いすの方でも介護車両での移動を支援している。家族様には面会の際外出を兼ねお食事などの協力を頂いている。	敷地が広いので、夏にはベンチを出して、外気浴やランチをしている。近隣の公園など日常的に散歩している。外出行事は、お花見や紅葉見学、モエレ沼公園や百合が原公園などで、年1回小樽観光もしており、ショッピングセンターで買い物の支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様協力のもと所持できる方は数名います。お小遣いを個々で預かり使用目的に応じ対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代行して電話をかけたたり、手紙の用意をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関出入りの際開け閉めの音に気遣っています。トイレ、水回りは、とくに清潔に保つようになっています。居間空間は広々と照明やテレビの音の調整も出ています	共用空間は、採光や風通しもよく、リビングや廊下も広く、全体的にゆったりとした造りで、清掃も行き届き清潔感がある。家族の宿泊用の部屋もあり、普段は会議室として町内会婦人部に開放している。また敷地が広い為、前庭で花壇や菜園などして季節が感じられる。利用者は、日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ居心地の良い場所は決まっており、会話を楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からなじみの家具などは持参していただいております。配置は、家族様本人様に任せています。	居室には、大きな収納があり、配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室前の捨身、表札を可能な方はしています。見当障害のかたは誘導したり支援しています。		